

主張

教職員の育成 「背伸び?」

三浦利章



今GIGAスクール構想の実現など、国を挙げての教育改革が進められています。新しい制度やシステムを有意義なものに創り上げていくためには、直接子供たちに接して教育活動に当たっている教職員の力量に負うところが大きいと思います。また、教職員一人一人の資質能力を高め、学校教育に対する保護者等からの信頼を高めることも重要な課題です。管理職の業務の一つに人材育成がありますが、管理職は普段から人材育成を考え、教職員と接しているわけではなく、一人一人の子供たちのためや、学校全体のことを考え、教職員に接し、指示をし、良い方向性を与えています。それに応えて、いや、それを糧にして、教職員は成長していきます。今思うと、私も管理職や先輩の教職員から教えてもらったたくさんの方がいますが、その中で、「成長した」「何かに自信がもてた」と感じたものに、研究授業があります。大失敗だった初めての研究授業のことは恥ずかしなから今でも鮮明に覚えています。

教職員の成長を感じる時は研究授業など「少し難しい仕事に向っている時」や「何か達成感を感じた時」、また「仕事を任せられ成功した時」などではないかと思えます。仕事をただ漫然とやるのではなく、簡単な仕事を何度も繰り返すだけでなく、背伸びしてやっ



と届くやや難しい仕事をやった時。誰かのお手伝いではなく仕事を丸ごと任せられ、その仕事をやり遂げるために、やや困難が伴い達成感を感じた時。そんな時にその教職員自身も、仕事を見届けた先輩も成長を感じるのではないでしょうか。新米の教員が実力をつけた教員になるためには、新米の期間をどのように過ごすかが大切になると思います。初心を忘れ、惰性と経験だけで過ごすのであれば、その教職員には明るい未来はないかもしれません。何事においても重要な意義をかみしめて、立ち向かっていくことが大切だと思います。どの職業でも仕事や立場が人間をつくります。立場や役割によって人の態度は異なり顔つきまで変化すると言われます。仕事を任せられ、やりがいを感じ責任の重さに苦しみつつも何かを達成したら、次の目標に向かい、少しずつ成長していくと思います。

また、教職員が変わらなければ学校の改革などは夢のまた夢かもしれません。教育改革が矢継ぎ早に盛んに行われていますが、どんな改革案が出て、学校現場の教職員一人一人の力量が向上しなければ、絵に描いた餅となってしまうと思います。教職員が、教育活動で目の前の子供たちを変えた時、その努力は、学校を変える力になるし、自分の生き方を見つめ直す力になります。私たちは仕事を通して喜びを感じ、仕事を通して苦勞を味わい、そんな経験をする中で自分の人間性が徐々に備わっていき成長するのだと思います。

教職員は子供たちに夢や目標など大きな影響を与えます。そして、子供たちと一緒に成長を分かち合うことができます。それが教職員の醍醐味です。嬉しさ、楽しさ、喜びには力があります。ポストコロナとなり、マスクをはずした子供、教職員の笑顔が、全国の学校にあふれることを願っています。

(全日中副会長・北海道千歳市立千歳中学校長)